地域の資源を生かしアイデアを出し合った新商品が好評！

八戸市六日町商店街振興組合

機関名	八戸市六日町商店街振興組合	
所在地	青森県八戸市六日町１０	
電話番号	０１７８－４６－４６５０	
地域概要	(1)管内人口　２４万５千人	(2)管内商店街数　－　商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数　商店街	(2)会員数　１０８　商店
	(3)空店舗率　１０　％	(4)大型店空き店舗　０　店
商店街の類型	1.超広域型商店街　2.広域型商店街　~~3.地域型商店街~~　4.近隣型商店街	

【事業名と実施年度】

平成 13 年度　　活性化対策事業　　新商品の開発
　　総事業費　　９，２９０千円

【事業実施内容】

１．背景

青森県八戸市は、青森県の南東部に位置する、台地と平野がなだらかに広がる地勢を持つ、人口約２４万５千人の特例市である。

海岸地帯には近代的、大規模な施設を擁する工業港、漁港、商港が配置されており、東北屈指の工業、水産業のまちである。商業もまた、昭和３０年来急速に発展した工業と、それによる人口増加に後押しされるように発展した。

八戸市の位置

八戸市六日町商店街振興組合は八戸市内の４つの商店街振興組合の中では、一番歴史が浅く、約１０年の若い組合である。任意組合時代から、商店街と個店の魅力創出のために、毎年６月に開催している「ナイトオリエンテーリング」イベントなどを開催し、好評を博してきた。

しかし、六日町でも工業の衰退、大型店の出店や人口流出などによりもたらされる商店街の活力低下は免れていない。設立時２０８名だった組合員は、１０年目を迎えた時点で現在１０２名にまで減少している。

このような状況を受け、当商店街では理事長を中心に「組合に加入している事業所のメリットになる事業を展開」する必要性が、組合員間の幾度とない話し合いと説得を経て認識された。

その結果、組合員の販売促進のための新商品開発を目的とした「はちのへ六日町ものづくりプロジェクト」を商店街活性化事業として実施するにいたった。

事業の展開に際して、六日町は別称で「肴町」と呼ばれるほど魚と海に縁があり、それが当商店街の資源でもあるという認識から、キーワードは「魚」「海」とした。

２．事業内容

商店街の特色を生かして、観光客や一般消費者をターゲットに商店街オリジナル新商品を開発するため、以下の取組みが実施された。

（１）はちのへ六日町ものづくりプロジェクト推進委員会

学識経験者、専門家、消費者および六日町商店街振興組合の組合員により選出された 28 名の委員にて「はちのへ六日町ものづくりプロジェクト推進委員会」を設置した。

当委員会では、平成１３年７月から平成１４年３月までに１３回の委員会を開催した。

また、このほかに作業部会、女性による委員会も組織、開催された。

（２）はちのへ六日町ものづくりプロジェクト

委員会での商品開発の検討の結果、以下の新商品開発が進められた。

① 石橋忠三郎ガラス工房による「魚」をモチーフにしたガラス工芸品
② 委員自ら仕込みに参加した日本酒「海のささやき」
③ 県水産加工研究所の指導によるイカの蒲鉾「いかのささやき」
④ その他、陶芸、ステンドグラス、家具、宅配炭火魚焼きセット、デザインＴシャツなど居食住を網羅した商品の開発

（３）ま・さ・か・なハウス

商店街区にある空きテナントを活用して開発した新商品の試作品を展示、アンケートを実施することで消費者ニーズを調査し、結果を商品開発にフィードバックするために、ま・さ・か・なハウスをオープンした。

（４）ホームページの開設

インターネットにより試作品に関するアンケート調査を実施することを目的に、「ま・さ・か・なページ」を開設した。このページでは、当事業に関する講演会、パネルディスカッション、委員会の内容を一般に公開するとともにＴシャツのデザインに関するアンケートを実施した。また、八戸をＰＲするため、生きたイカの泳ぐ水槽の動画の配信なども行った。

ホームページ「ま・さ・か・なページ」

【　効　果　】

① 魚の形をイメージした皿、杯、花器、ランプ等のガラス細工の開発
② 日本酒「海のささやき」の好評
③ 魚の形をしたテーブル等の家具の開発
④ キーホルダー、コースター等どれも魚をイメージした雑貨類の開発
⑤ イカ 100%の笹蒲鉾「イカのささやき」への取組み
⑥ おいしい魚をその場で炭火焼きにできる炭火焼き器の開発
⑦ 魚や六日町をイメージしたデザインＴシャツの開発
市内１１人の若手デザイナー、イラストレーターにより、７７点もの作品が出来上がり、ま・さ・か・なセンターおよびホームページで投票を実施した。

投票第一位に輝いたＴシャツ

⑧ 組合に対しての組合員の参加意識の向上

【課題・反省点】

商品化がうまくいったものもあれば、イカの蒲鉾など製造過程で技術的な面がクリアできていないものがある。継続しての研究開発が必要である。

【関連ＵＲＬ】

ま・さ・か・なページ　http://www.masakana.jp/index.html

好評の日本酒「海のささやき」

仕込みには委員会のメンバーも参加

「いかのささやき」の開発の様子

2002年1月7日(月)　東奥日報　ニュース

八戸・六日町で「海の酒」試飲会

八戸市六日町商店街振興組合が六日、恒例の「六の市」を開き、同組合の「はちのへ六日町ものづくりプロジェクト推進委員会」が開発した純米酒「海の酒」を買い物客らが試飲した。

「海の酒」は今年十二月の東北新幹線八戸駅開業をにらんで、同委員会が昨年七月から企画に取り組んできた。市内の醸造メーカーの協力で十一月下旬に仕込みを開始。推進委員が醸造作業から参加し、新年初の「六の市」に合わせて六百本を瓶詰めした。

試飲会は同委員会が開発した産品を展示するショールーム「まさかなハウス」で行われ、八戸市内の男性(37)は「すっきりした飲み口だが深みがある」と評価していた。

初売りの抽選会も同会場で開かれ、来場者には雑煮やあんこもちが振る舞われた。

※写真は純米酒「海の酒」を試飲する買い物客

前へ | 次へ

HOME

東奥日報に掲載された記事